

地域で異なる温度環境

— 指定試験現地ウメ園気象観測結果(2001)から —

地球規模の温暖化に対して世界的な取り組みが行われていますが、温暖化にともなうどのようなことが起きているのでしょうか。

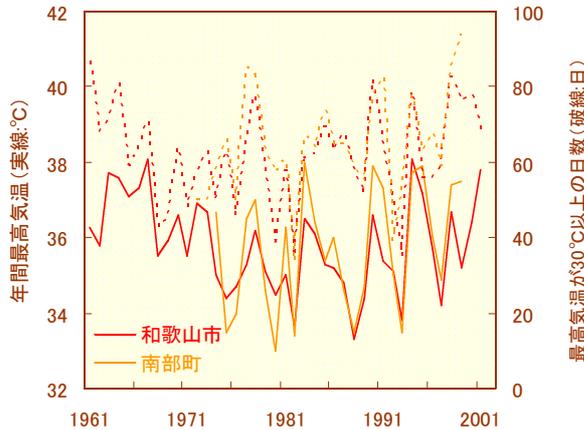


図1 近年における最高気温の変化

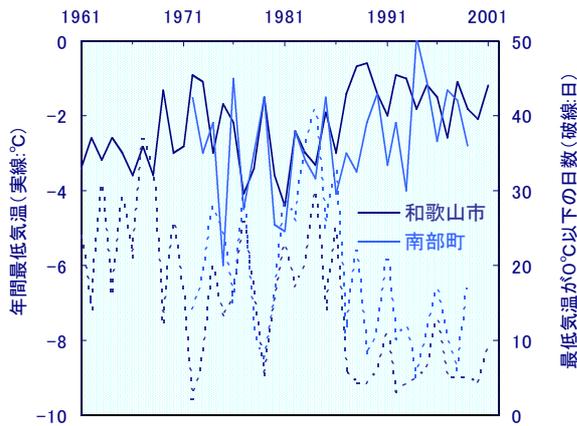


図2 近年における最低気温の変化

近年(1961年以降)の和歌山市における年間最高気温の変化をみると、最近の最高気温は1960年代に比べて高いとはいえません(図1)。また、最高気温が30°C以上の日数も変わりません。ところが、年間最低気温は1980年代後半から高くなり、最低気温が0°C以下の日数は明らかに少なくなっています(図2)。このような暖冬傾向は、南部町(南部高校)など他の地域でも観測されています。

現在、和歌山県内には、11カ所のアメダス観測地点があり、ネットワーク上(www.tenki.jp/amd)で逐次観測データを見ることが出来ます。しかし、アメダス観測データは、作物栽培に活用するには不十分で、栽培地域に近い地点で詳細なデータを集積する必要があります。そこで、農林水産省指定試験では、現地ウメ園4カ所に気象観測装置を設置し、2001年から観測を開始しました。

表1 各地域の温度環境(2001年アメダスデータ等)

場所	年間最低気温	最低気温0°C以下の日数	年間最高気温	最高気温30°C以上の日数
(山間部)				
龍神	-5.5	77	35.1	33
栗栖川	-5.2	77	36.4	57
(中間地域)				
秋津川*	-4.4	19	38.6	55
上芳養*	-4.3	21	39.9	80
(海に近い地域)				
西本庄*	-3.6	11	36.9	66
東岩代*	-3.1	10	36.3	56
川辺	-2.4	11	36.4	53
白浜	-1.3	10	34.2	54
暖地園芸センター	-1.2	2	37.2	65

* 指定試験で設置した気象観測装置の測定結果(データ一部欠損)

2001年の指定試験観測地点と周辺アメダス観測地点における最低気温をみると、山間部(龍神、栗栖川)では年間最低気温が低く、最低気温が0°C以下の日数が70日をこえています。海に近い地域(西本庄、東岩代、川辺、白浜、暖地園芸センター)では11日以下です(表1)。これらの中に位置する秋津川、上芳養では、20日前後となっています。一方、年間最高気温が最も高いのは上芳養で、最高気温が30°C以上の日数も最も多くなっています。

上芳養のように冬季の温暖化傾向とともに、夏季に長い高温期間が発生している地域では、温度環境の変化が作物に与える影響が危惧されます。このため、現在も観測を継続しています。

(指定試験主任・総括研究員 平岡 潔志)